

Keystone symposia

“RNA Modifications in Health and Disease” 参加報告

総合研究大学院大学 生命科学研究科 遺伝学専攻 修了生
無脊椎動物遺伝研究室
金子 隼也

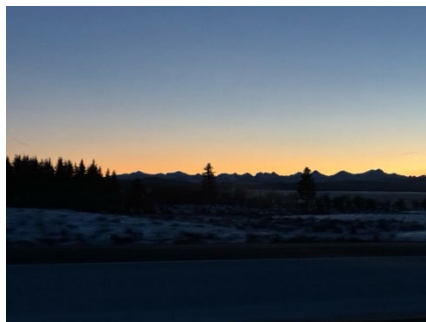
期間：2023. 12. 12 - 2023. 12. 16

開催地：カナダ、アルバータ州、バンフ

この度、私は遺伝学専攻より海外渡航旅費支援を受け「Keystone Symposia “RNA Modification in Health and Disease”」に参加いたしました。報告に先立ちまして、ご支援いただきました遺伝学専攻に御礼申し上げます。

本会がテーマに据える RNA modification の分野では 1951 年に初めて修飾塩基 Psudouridine (Ψ) が発見されながらも、その後は近年に至るまで修飾塩基の機能や発生的役割については理解が進んでおりませんでした。しかし、ここ 10 年間で次世代シーケンスや様々な化学種、抗体を組み合わせた修飾塩基の検出技術の発達に伴い RNA 修飾酵素、修飾塩基の生物学的意義の一端が明らかにされ分野は盛り上がりを見せています。また、今年ノーベル賞を受賞された Katalin Karikó 教授と Drew Weissman 教授の研究対象が RNA 修飾であったことも、当該分野が注目を集める契機となりました。ここまでの興隆を見せている RNA 修飾の分野ですが、日本ではこれをメインテーマとして学ぶことができる学会、研究会の機会は少ないのが実情です。そのため私は、本会が RNA 修飾に関する理解を深め、自らの研究の立ち位置を理解し、自らの研究を当該分野の研究者にアピールするには絶好の機会であると捉え参加を決めました。

本会は、カナダのアルバータ州、バンフの Fairmont Banff Springs で 5 日間の日程で行われ、現地には約 100 名の研究者が参加しました。どこか北海道の道東地方を彷彿



カルガリー空港周辺の景色



Fairmont Banff Springs

彿とさせる開けた土地と雪原、針葉樹の景色を眺めながらカルガリーを抜け、たどり着いたバンフの街はクリスマスシーズンということもあり色とりどりのイルミネーションに彩られていました。城のようなホテル（学会会場）と世界各国から集まったトップレベルの研究者たちに圧倒されながらも、学会2日目のポスター発表、3日目の口頭発表を無事終わることができました。発表中はやはり RNA 修飾に強い興味を持つ研究者の集いということで、自らの研究の方向性や業界での立ち位置についての理解を深められるようなフィードバックをたくさんいただくことができました。また、他の研究者の発表に目を向けると昨年参加した RNA 修飾のミーティングに比

べ RNA 修飾の有無により生じた個体の **phenotype** と RNA 修飾の機能を結びつけて論じているテーマが増えているようで、これは業界の関心が RNA 修飾の同定のみならず発生的役割にまで及んでいることを感じさせるものでした。私も今取り組んでいるテーマをいち早くまとめ上げ、業界の発展に少しでも貢献できればと思います。本会では、研究発表のみならず自身の次のポストク先であるラボの PI と今後取り組む予定のプロジェクトについて議論することができ、今後のキャリア形成にとっても重要な機会となりました。とても充実した5日間の本会は終始和やかな雰囲気で行われ、最後は一部の参加者による有志の楽器演奏と歌唱により締めくくられました。

RNA modification のみを取り扱うこのマニアックな会で濃い議論をできたのは私にとってかけがえのない時間になりました。学会中、議論していただいた方含めお世話になった方々にこの場を借りて御礼申し上げます。再びこのような素晴らしい会で意見交換ができるよう研究活動に取り組みたいと思います。



発表会場

Social Hour with Lite Bites (7:00-8:00 PM)
Entertainment (7:30-8:00 PM)

プログラムの一部より

Entertainment って何だと思っていたら参加者による有志の楽器演奏だった。参加者のほとんどが何するかわからないまま集められている感じだったが、聴衆含め全体で歌う場面もあり、最後は会場が一体となっていた。